

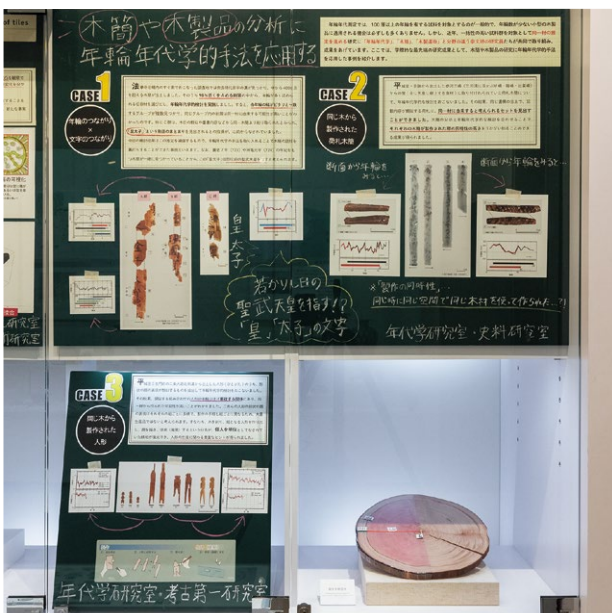
木簡の年輪年代学

年輪年代学は、年代測定法として認識されがちですが、年輪曲線の照合により年代測定だけでなく同一材の推定をおこなうこともできます。年輪年代測定では、概ね100層以上の年輪を有する試料を対象とするのが一般的で、年輪数が少ない小型の木製品にその手法が適用される機会は必ずしも多くありませんでした。いっぽう、近年の成果として、一括性の高い試料群を分析対象とすることにより、年輪数が少ない小型の木製品でも、その試料群の同一材の推定を進めることができる事例が増加してきました。

このような背景のもと、現在、科学研究費の支援を受けながら、木簡研究へ年輪年代学的手法を導入する検討をおこなっています。木簡を対象とした年輪年代学的検討を進めることにより、木簡やその削屑の同一材関係の推定や、刻まれる年輪の新旧関係をあきらかにすることができます。その成果にもとづく木簡の接合検討をおこなうことで、例えばこれまで断片的な文字として認識されていたものが、単語や文として意味を持つものになる等、木簡から引き出せる情報の増大につながることを期待されています。

これまでの検討事例は、埋蔵文化財ニュース181号にて紹介するとともに、平城宮跡資料館のピックアップ展示コーナーにおいても展示中です。ぜひご覧いただけたらと思います。

(埋蔵文化財センター 星野 安治)



展示風景